

箴言1-3章「知恵の初め」

1A 父の訓戒 1

1B 知恵の習得 1-7

2B 避けるべき罪人の道 8-19

3B 知恵への呼びかけ 20-33

2A 守られる道 2

1B 知恵の探り求め 1-10

2B 悪の道からの救い 11-22

3A 長い命と平安

1B 御教えの留意 1-10

2B 富より貴い知恵 11-20

3B 平和な生き方 21-35

本文

箴言を開いてください、私たちはこれから箴言を読んでいます。さっそく1章一節を見てください。

1A 父の訓戒 1

1B 知恵の習得 1-7

1:1 イスラエルの王、ダビデの子、ソロモンの箴言。

私たちはこれまで詩篇を読んできましたが、その多くがダビデによるものでした。主への礼拝、その献身を私たちは読んでいきました。そして箴言は、彼の息子、ソロモンによるものです。主に賛美して、礼拝を捧げるのがダビデでありましたが、ソロモンはその神の義をいかにこの地上に広げていくのか、その知恵を語っています。主との正しい関係を具体的に適用させていく、その知恵と知識がこの箴言です。

ソロモンは若い時に王となりました。これからの統治をどのようにすればよいか不安だったことでしょう。そこで夢の中で現れてくださった主が、「あなたに何をあげようか。」と問われた時、彼はこう答えました。「善悪を判断してあなたの民をさばくために聞き分ける心をしもべに与えてください。さもなければ、だれに、このおびただしいあなたの民をさばくことができるでしょうか。(1列王 3:9)」主はその願いを聞かれ、彼に知恵の心と判断する心とを与えられました。その知恵は非常に豊かで、海辺の砂浜のように広い心のものであったと書いてあります(1列王記 4:29)。そして、「彼は三千の箴言を語り、彼の歌は一千五首もあった。(32 節)」とあります。これから読む箴言も、三千の箴言の中の一つです。そしてソロモンの治世に、おびただしい繁栄と平和がありました。

私は、これからの学びがとても楽しみです。私たちの主イエス・キリストご自身が、神の知恵であられ、ソロモンが語っていく知恵の中にイエス様ご自身の知恵を見ることができるからです。私たちが主の御霊をいただいてこの地を歩む時に、同じようにして神の国が自分の周りに広がっていくのではないかと期待します。そして、ソロモンというのは「平和」という意味を持っていますが、彼の統治は将来の神の国を示していました。イスラエルとその周辺国に平和と繁栄が広がりましたが、再臨のキリストの預言には「その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座について、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。(イザヤ 9:7)」とあります。知恵に満ちているからこそ、そこには正義と平和があったのです。

ところで「箴言」という言葉は、ヘブル語の元々の言葉は「比較する」という意味になります。何かに例えて、知恵や格言を語っていきます。

1:2 これは、知恵と訓戒とを学び、悟りのことばを理解するためであり、1:3 正義と公義と公正と、思慮ある訓戒を体得するためであり、1:4 わきまのない者に分別を与え、若い者に知識と思慮を得させるためである。

箴言をソロモンが書く目的です。一つは、「知恵と訓戒とを学」ぶことです。知恵を学ぶということに、「訓戒」があります。あるいは、訓練、しつけ、と言ってもよいでしょう。自分が理解してから、ではこのことを行なおうとするような大人の学習法ではなく、「これをしなさい」という言いつけを聞いて、「ああ、たしかにこれは正しい」と後で悟る、子供の学習法であります。

そして、「正義と公義と公正と、思慮ある訓戒を体得」します。正義とは正しい関係です。「正義」のヘブル語の元々の意味は、「まっすぐ」であります。本来あるべきところに物が存在していることであり、そうでなければ「曲がっている」ということになります。「公義」は、公のところで正義を行使することです。そして「公正」あるいは「公平」は、バランスを保つことですね。正義があり、公義、そして公正があるところに人々は安心に、平和に暮らすことができ、そこに豊かさや命があります。

そして 4 節ですが、「わきまのない者」とは何でも誘われるままに付いていき、語られるままに信じ、惑わされていく姿を示しています。そのわきまのない者とは、若者のことを代表しています。未熟な姿です。そうした者たちに分別、識別力を付けさせます。

1:5 知恵のある者はこれを聞いて理解を深め、悟りのある者は指導を得る。

私たちの考え方ですと、「聞いて教えてくれるから知恵が与えられるのではないですか。指導を受けるから、悟りを得られるのではないですか。」と思います。けれども順番が逆で、知恵があるから理解を深め、悟りがあるから指導を得ます。つまり、「知恵」というのは態度なのです。心のあり方なのです。あることを注意されて、「そんなこと聞いていません。教えられていませんでした。」

と言われたとします。けれども実は、教えられていたのに、聞く耳を持っていなかったということがありますね。聞こえるものが聞こえるようになるのは、その心のあり方にかかっているのです。

1:6 これは箴言と、比喩と、知恵のある者のことばと、そのなぞとを理解するためである。

「なぞ」というのは、隠喩のことです。はっきりと言っていないませんが、その意味するところは理解できるということです。

1:7 主を恐れることは知識の初めである。愚か者は知恵と訓戒をさげすむ。

この言葉が、箴言全体のテーマになります。箴言全体の主題は、「知恵」です。そして知恵は、主を恐れることによって成り立っています。9章10節にも同じことが書かれていますが、「主を恐れることは知恵の初め、聖なる方を知ることは悟りである。」とあります。詩篇にも同じことがありました。「111:10 主を恐れることは、知恵の初め。これを行なう人はみな、良い明察を得る。」とあります。ですから、知恵というのは、自分がこの世をうまく乗り切っていく処世術ではないのです。もし、そうであれば私たちは教会に来る必要はないでしょう。そういった意味での知恵であれば、会社のほうがはるかにしっかりしています。主を畏れ敬い、その健全な畏怖をもって悪から遠ざかるというところに知恵があります。「悪事においては幼子でありなさい。(1コリント 14:20)」というように、自分では分からないけれども、主がそう言われているのだからという理由だけで悪を避けます。

2B 避けるべき罪人の道 8-19

ここまでが、箴言を書く目的です。そして8節から、「わが子よ」という呼びかけになっています。9章までこれが続き、ソロモンが自分の息子に教える形になっています。知恵を持ちなさいという呼びかけです。

1:8 わが子よ。あなたの父の訓戒に聞き従え。あなたの母の教えを捨ててはならない。1:9 それらは、あなたの頭の美しい花輪、あなたの首飾りである。

モーセの律法、「あなたの父と母を敬え。(出エジプト 20:12)」を意識した言葉でしょう。日頃の生活のことは、お母さんの言いつけに聞き従います。けれども、子供の躰、また生活の全体的な方針、善悪の価値観などは父が定めてあげます。知恵を持つことは、父が子を教えるように神に教えられ、その戒めをそのまま聞いて行なっていくことによって体得するものです。そして、知恵を身に付けることを、美しい飾りのようにしてこれからも語っていきます。

1:10 わが子よ。罪人たちがあなたを惑わしても、彼らに従ってはならない。1:11 もしも、彼らがこう言っても。「いっしょに來い。われわれは人の血を流すために待ち伏せし、罪のない者を、理由もなく、こっそりねらい、1:12 よみのように、彼らを生きたままで、のみこみ、墓に下る者のように、

彼らをそのまま丸のみにしよう。1:13 あらゆる宝物を見つけ出し、分捕り物で、われわれの家を満たそう。1:14 おまえも、われわれの間でくじを引き、われわれみなで一つの財布を持とう。」1:15 わが子よ。彼らといっしょに道を歩いてはならない。あなたの足を彼らの通り道に踏み入れてはならない。1:16 彼らの足は悪に走り、血を流そうと急いでいるからだ。

「わきまのない者に分別を与え」という言葉のとおり、悪い仲間の惑わしを見抜くことなく、そのまま従っていく息子の傾向に対して、父がしっかり戒めている姿です。若者また未熟な者に付き物なのは、仲間からの誘いに弱いということです。それを断るのは、とても勇気が要ります。しかし、ここで訓練が必要なのです。主を恐れる、ということです。そして悪い仲間に加わらないというのが知恵の始まりです。「2コリント6:14 不信者と、つり合わぬくびきをいっしょにつけてはいけません。正義と不法とに、どんなつながりがあるでしょう。光と暗やみとに、どんな交わりがあるでしょう。」

1:17 鳥がみな見ているところで、網を張っても、むだなことだ。1:18 彼らは待ち伏せして自分の血を流し、自分のいのちを、こっそり、ねらっているのにすぎない。1:19 利得をむさぼる者の道はすべてこのようだ。こうして、持ち主のいのちを取り去ってしまう。

すぐに悪事は暴かれて、その奪い取った物は取り去られるということです。鳥が見ているところで網を張っているというのは、すでにその悪事がばれているということです。そしてその者の命は取り去られます、命を取ったのだから、自分の命も取られるのです。

3B 知恵への呼びかけ 20-33

1:20 知恵は、ちまたで大声で叫び、広場でその声をあげ、1:21 騒がしい町かどで叫び、町の門の入口で語りかけて言う。

わきまのない者に対して罪人たちの惑わしに対して、知恵が大声で叫んで、呼びかけています。私たちは普通にしていたら、罪人の惑わしのほうに動いていきますが、知恵が「そうではない！」と叫ぶのです。そして、知恵というのは学校ではなく、「騒がしい町かどで叫び、町の門の入口」で叫んでいることに注目してください。知恵は図書館にこもって得られるものではなく、知恵の宝庫として貯めておくことができないものです。現場において神の与えられる賜物なのです。その必要な瞬間に、主が恵みによって与えてくださるものです。

1:22 「わきまのない者たち。あなたがたは、いつまで、わきまのないことを好むのか。あざける者は、いつまで、あざけりを楽しみ、愚かな者は、いつまで、知識を憎むのか。1:23 わたしの叱責に心を留めるなら、今すぐ、あなたがたにわたしの霊を注ぎ、あなたがたにわたしのことばを知らせよう。

ここで大事なのは、「今すぐ」という言葉です。私たちが主に立ち返りさえするならば、主はすぐに

でも私たちを助け、聖霊によって主の言葉を与えてくださいます。主はずっと、私たちを憐れもうと待っておられるのです。「55:6-7 主を求めよ。お会いできる間に。近くにおられるうちに、呼び求めよ。悪者はおのれの道を捨て、不法者はおのれのはかりごとを捨て去れ。主に帰れ。そうすれば、主はあわれんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださるから。」

1:24 わたしが呼んだのに、あなたがたは拒んだ。わたしは手を伸べたが、顧みる者はない。1:25 あなたがたはわたしのすべての忠告を無視し、わたしの叱責を受け入れなかった。1:26 それで、わたしも、あなたがたが災難に会うときに笑い、あなたがたを恐怖が襲うとき、あざけろう。1:27 恐怖があらしのようにあなたがたを襲うとき、災難がつむじ風のようにあなたがたを襲うとき、苦難と苦悩があなたがたの上に下るとき、1:28 そのとき、彼らはわたしを呼ぶが、わたしは答えない。わたしを捜し求めるが、彼らはわたしを見つけることができない。1:29 なぜなら、彼らは知識を憎み、主を恐れることを選ばず、1:30 わたしの忠告を好まず、わたしの叱責を、ことごとく侮ったからである。1:31 それで、彼らは自分の行ないの実を食らい、自分のたくらみに飽きるであろう。

ガラテヤ 5 章にある原則ですね、「自分の肉のために蒔く者は、肉から滅びを刈り取り(8 節)」とあります。この結末は苦痛を伴うものです。金銭を愛することについて、パウロが言いました。「ある人たちは、金を追い求めたために、信仰から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました。(1テモテ 6:10)」

28 節で、「彼らはわたしを呼ぶが、わたしは答えない。わたしを捜し求めるが、彼らはわたしを見つけることができない。」と言っていますが、これは真実な悔い改めではありません。29 節にあるように、主を恐れていないのに、ただ今の状況が酷くなったから助けてくださいと言っているだけです。サウル王が、サムエルによって王位が退けられたと宣言されてから、「私は罪を犯しました。しかし、人々の面目を立たせてください。共に主を礼拝させてください。(1サムエル 15:30 参照)」と言いました。真実な悔い改めは、主が呼びかけておられる時に応えることです。

1:32 わきまのない者の背信は自分を殺し、愚かな者の安心は自分を滅ぼす。1:33 しかし、わたしに聞き従う者は、安全に住まい、わざわざを恐れることもなく、安らかである。」

知恵のあるところには、安全と安心があります。知恵と対にして考えるとよいのは平和です。「しかし、上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温順であり、また、あわれみと良い実とに満ち、えこひいきがなく、見せかけのないものです。義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます。(ヤコブ 3:17-18)」知恵というのは、正義に基づいています。正しい関係があり、全体が正しさで支配されていれば、そこには秩序があり、平和があります。自分自身を求めずキリストを求めて、隣人を喜ばすという成熟があれば、そこには平和が広がります。そしてそれが、神の国なのです。「ローマ 14:17 なぜなら、神の国は飲み食いのことではなく、義と平和と聖霊による喜びだからです。」

2A 守られる道 2

1B 知恵の探り求め 1-10

2:1 わが子よ。もしあなたが、私のことばを受け入れ、私の命令をあなたのうちにたくわえ、2:2 あなたの耳を知恵に傾け、あなたの心を英知に向けるなら、2:3 もしあなたが悟りを呼び求め、英知を求めて声をあげ、2:4 銀のように、これを捜し、隠された宝のように、これを探り出すなら、2:5 そのとき、あなたは、主を恐れることを悟り、神の知識を見いだそう。2:6 主が知恵を与え、御口を通して知識と英知を与えられるからだ。

ソロモンは再び、「わが子よ。」と呼びかけています。父から子に対する呼びかけです。1章では、悪者の仲間にならないこと、そしてその道を歩み始めても叱責を聞いて、そこから離れること、そのことによって安全を得るというものでした。2章は積極面を話しています。父の言葉に、聞き入ることです。その積極面が、四つの段階になっています。一つは、「ことばを受け入れ、その命令をたくわえる」こと。次に、「耳を傾け、心に向ける」こと。そして、「呼び求める」こと。そして次に、「探り出すこと」です。そして、これらのことを行なったら初めて、「主を恐れることを悟り、神の知識を見いだす」ということであります。

これは、普段のプロセスとは逆です。「言われることは、そう感じられて、納得したら信じてみようと思います。それで確かだと分かたら行なってみる。」ということだと思います。しかし、先ほど話したように幼子は、そのようにして学びません。「これこれをしなさい。」と言われたら、母親あるいは父親がそう言うから、その言葉を信じて行なうのです。そして行なって、「なるほど、そうだったのか。」と後になって悟ります。そして、安心するのです。まず信じて、聞き従って、それを行なっているから、知り、そして最後に実感します。「実感できなかつたら、信じられない。信じられないから、行なわない。」ではないのです。

イエス様は言われました。「ヨハネ 14:21 わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身を彼に現わします。」神とキリストの愛を知るのも、同じ順番なのです。イエス様の戒めを守るから、イエス様の愛を知ることができます。例えば、人の罪を赦すから、神の赦しがどんなに尊いものであるかを悟ることができます。信じて、その通りに行っていくから、御霊がその真理を知ることができるようにしてくださるのです。ですから、従順が鍵です。

2:7 彼は正しい者のために、すぐれた知性をたくわえ、正しく歩む者の盾となり、2:8 公義の小道を保ち、その聖徒たちの道を守る。2:9 そのとき、あなたは正義と公義と公正と、すべての良い道筋を悟る。2:10 知恵があなたの心にはいり、知識があなたのたましいを楽しませるからだ。

主の知恵を悟るだけでなく、主はその悟った者たちの道を守ってくださいます。これが祝福ですね。主に自分の身を捧げた人は、主が必ず守ってくださいます。自分が自分で守りますと言う人は、

いつまでも自分で守らないといけません。しかし、主に明け渡すと、その安全は主が保障してください。そして、その道は楽しいです。知恵と知識が、自分の魂を喜ばせています。

2B 悪の道からの救い 11-22

2:11 思慮があなたを守り、英知があなたを保って、2:12 悪の道からあなたを救い出し、ねじれごとを言う者からあなたを救い出す。2:13 彼らはまっすぐな道を捨て、やみの道に歩み、2:14 悪を行なうことを喜び、悪いねじれごとを楽しむ。2:15 彼らの道は曲がり、その道筋は曲がりくねっている。

悪の道から主がその知恵が自分を守るのですが、悪の道は「曲がった道」と書かれています。そして悪者の言葉は、「ねじれごと」とあります。先ほど話したように、ヘブル語の元々の「正義」の意味は「まっすぐ」ということです。例えば、背中はあるべきところに骨があって、筋肉が付いているから姿勢を良くしていることができます。けれども、事故になってその骨がずれてしまう、また筋肉が離れてしまうというようなことがあったら、まっすぐの姿勢を保つことはできません。あるべきところに存在していないことが、曲がったことであります。

2:16 あなたは、他人の妻から身を避けよ。ことばのなめらかな、見知らぬ女から。2:17 彼女は若いころの連れ合いを捨て、その神との契約を忘れている。2:18 彼女の家は死に下り、その道筋はやみにつながる。2:19 彼女のもとへ行く者はだれも帰って来ない。いのちの道に至らない。

わきまえない者、若い者が陥る罪の大きな一つが、「女」です。この女は他人の妻です。まさにモーセ五書の「姦淫してはならない」に当てはまります。

9 章にまで渡り、ソロモンは女の誘惑を何度も戒めています。興味深いことに、ヘブル語における「知恵」は女性形の名詞です。ですから、見知らぬ女が一方におり、知恵という女が他方にいるという感じになっています。一方はここのように、なめらかな言葉を使って誘います。もう一方は大声で叫んで呼びかけます。私たちは常に、このような誘惑の声と、呼びかける声の二つを聞いているわけです。

2:20 だから、あなたは良い人々の道に歩み、正しい人々の道を守るがよい。

大事ですね、私たちは悪い人々から離れますが、「良い人々、正しい人々」と共にいるという交わりが必要になります。「2テモテ 2:22 それで、あなたは、若い時の情欲を避け、きよい心で主を呼び求める人たちとともに、義と信仰と愛と平和を追い求めなさい。」

2:21 正直な人は地に住みつき、潔白な人は地に生き残る。2:22 しかし、悪者どもは地から絶やされ、裏切り者は地から根こぎにされる。

必ず、主はこの地を裁かれます。その時にだれが生き残り、その地を相続するのか？正直な人、潔白な人だということです。私たちを生き長らえさせるのは、神のみこころを行なうことです。「1ヨハネ 2:17 世と世の欲は滅び去ります。しかし、神のみこころを行なう者は、いつまでもながらえま

3A 長い命と平安

そして3章は、主の教えを守る者に与えられる命と平安の約束について書いてあります。

1B 御教えの留意 1-10

3:1 わが子よ。私のおしえを忘れるな。私の命令を心に留めよ。3:2 そうすれば、あなたに長い日と、いのちの年と平安が増し加えられる。

再び、「わが子よ」との呼びかけです。1章では、罪人の惑わしに乗るなという戒めでした。2章では、父の教えに耳を傾けよ、そうすれば主の知識を知るというものでした。そして今は、「忘れるな、心に留めよ」という命令です。悪から離れ、善を追い求め、そしてその義の中に留まるという順番です。

そして父の命令に従うと、長い日々と平安が増し加えられると約束されています。父母を敬う戒めには、年齢が長くなるという約束が付いています。「出エジプト記 20:12 あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が与えようとしておられる地で、あなたの年齢が長くなるためである。」親の訓戒に従うということは、多くの災いから自分を守ります。私が生まれて初めて葬式に出席したのは、高校生の時でした。中学校の時の同級生が、バイクを乗り回して交通事故で死んだのです。このように親の保護から出てしまった人たちが、事故にあったり、病に伏したり、寿命を短くすることがあります。

3:3 恵みとまことを捨ててはならない。それをあなたの首に結び、あなたの心の板に書きしるせ。

3:4 神と人との前に好意と聡明を得よ。

神の恵みの中に留まります。そして神の真理にも留まっています。その恵みとは、自分が罪の中で死んでいたのにキリストにあって生かし、この私をキリストにあって天の座に着かせてくださったということです。そして、神の真理からも外れてはいけません。たとえそれがこの世においては、標準から離れているようであっても、それでも神の真理から離れないのです。

そして神と人から好意と聡明、つまり高い評価を受けます。主ご自身が、男の子として成長された時、そのようでした。「イエスはますます知恵が進み、背たけも大きくなり、神と人々に愛された。(ルカ 2:52)」知恵が与えられ、それによって神と人々から好意と聡明を受けよという命令は、実にイエス様ご自身の少年時代で見ることのできるものでした。

3:5 心を尽くして主に抛り頼め。自分の悟りにたよるな。3:6 あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。

あまりにも有名な聖句が、ソロモンが知恵であると言っていることに一貫した言葉であります。主を恐れるということは、ここにあるように主の言われていることを信頼することです。「心を尽くして」と言っていますが、普通にしていれば主ではなく、自分自身に頼っています。信じるというのは、心を尽くすという行為です。主にのみ抛り頼むという不断の努力です。

そして、「自分の悟りにたよるな。」とsちmsづ。自分が感じたこと、経験したこと、自分が考えたことに基づいて私たちは行動に移しています。主が何と言われているかを聞くことなく、自分の判断で動いているのです。ヨシュアのことを思い出してください。ギブオンの住民たちは、自分たちが遠い国から来たのを装って、イスラエル人たちと和平を結びました。その時、「そこで人々は、彼らの食料のいくらかを取ったが、主の指示を仰がなかった。(ヨシュア 9:14)」とあります。ギブオン人たちのぼろぼろの服、かちかちになったパン、こういったものに判断してしまったのです。それで本当は滅ぼさなければいけなかった民を滅ぼすことができませんでした。

そして、「あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。」とあります。これは、神が至るところにおられて、支配されていることを認めること、神の主権を認めることを意味します。私たちが焦って、自分たちで何とかしなければいけないと思っている時、主がそこにおられることを忘れてしまいます。教会の中には主がおられることを、信仰をもって受け入れています。ここでは「あなたの行く所どこにおいても」とあります。自分が一番、主がいてほしくない、自分でどんどん決めさせてほしいと願うようなところにも主を認めます。

このように主を認めると、「主はあなたの道をまっすぐにされる。」という約束があります。私たちがどこに行けばよいか分からない道があっても、主がまっすぐにしてくださいます。どの会社に就職すればよいのか、あの人と結婚するのは御心なのかどうかなど、主の導きについての質問を受けます。私は、「主を自分のやっていることのあらゆるところで認めてください。」と言います。その後のことは、主がまっすぐにしてくださいます。

3:7 自分を知恵のある者と思うな。主を恐れて、悪から離れよ。3:8 それはあなたのからだを健康にし、あなたの骨に元気をつける。

そうですね、「自分は知っている」と思っている状態は、非常に危ういところに立っています。「自分はこんな罪に陥ることはない。」と思っていながら、実はその罪の深みに入ってしまったことがあります。サムソンの生涯がそうです。自分にはまだ力があると思っていたのです。ところが、「彼は主が自分から去られたことを知らなかった。(士師 16:20)」とあります。

しかし、悪から離れていることによって、私たちの霊と魂は守られます。健康でいることができます。そして靈魂だけでなく、体も守られます。私たちが霊的な事柄、つまり主に関することで平安を持つことができれば、それは魂にもそして体にも良い影響を与えます。それぞれはばらばらではなく、密接に結びついているのです。

3:9 あなたの財産とすべての収穫の初物で、主をあがめよ。3:10 そうすれば、あなたの倉は豊かに満たされ、あなたの酒ぶねは新しいぶどう酒であふれる。

この箇所も、自分の悟りや知恵に頼らず、主に拠り頼むことに関係するところです。私たちが、自分の財産や収穫(つまり給料)が入って、それをすぐにまず主のためにささげるならば、人間的に考えれば、税金のように自分の収入や財産へ減ります。これが私たちの考えであり、計算です。しかし、神は別の法則を持っておられます。ちょうど重力の法則があり物は下に落ちますが、空気力学の法則が同時に存在し、あの重い巨体である飛行機は上に飛ぶのです。同じように、私たちが自分の財産と収入の初めを主にささげれば、主がそれを豊かに祝福され、自分は豊かにされるのです。与える者が受けるのです。これは経験してみないとわかりません。ですから、自分の悟りでは理解できなくても、それを行ってみるのです。そしてこの原理を悟ります。

2B 富より貴い知恵 11-20

3:11 わが子よ。主の懲らしめをないがしろにするな。その叱責をいとうな。3:12 父がかわいがる子をしかるように、主は愛する者をしかる。

再び、「わが子よ」という呼びかけです。主から知恵を受ける時に、そこに「叱責」が含まれます。これは痛いことです。悲しくなることです。けれども、それは主の愛から出てきていることであって、自分の主に対する信頼にさらに聖めが与えられます。

ヘブル書 12 章前半が、すべてこの話題を取り上げています。12 章 5-7 節にこの箇所が引用されていますが、その後で次のように解説しています。「ヘブル 12:7-11 訓練と思って耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が懲らしめることをしない子がいるでしょうか。もしあなたがたが、だれでも受ける懲らしめを受けていないとすれば、私生子であって、ほんとうの子ではないのです。さらにまた、私たちには肉の父がいて、私たちが懲らしめたのですが、しかも私たちは彼らを敬ったのであれば、なおさらのこと、私たちはすべての霊の父に服従して生きるべきではないでしょうか。なぜなら、肉の父親は、短い期間、自分が良いと思うままに私たちが懲らしめるのですが、霊の父は、私たちの益のため、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして、懲らしめるのです。すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。」子の最後に、平和な義の実とありましたね。そうです、主の懲らしめは知恵を生み出します。人を成長させ、成熟に向かわせ、整られた人として、その周りに平和をもたらします。

3:13 幸いなことよ。知恵を見いだす人、英知をいただく人は。3:14 それの儲けは銀の儲けにまさり、その収穫は黄金にまさるからだ。3:15 知恵は真珠よりも尊く、あなたの望むどんなものも、これとは比べられない。

知恵の尊さが書かれています、どんな貴金属よりも貴いものです。

3:16 その右の手には長寿があり、その左の手には富と誉れがある。3:17 その道は楽しい道であり、その通り道はみな平安である。3:18 知恵は、これを堅く握る者にはいのちの木である。これをつかんでいる者は幸いである。

知恵には、多くの約束があります。長寿、そして富と誉れです。主を恐れたヨブは、生涯の後半はこのような姿でありました。そして楽しく、平安です。さらに、いのちの木であると言っています。これは、エデンの園にあった命の木のことです。知恵とは、いのちそのものであるということです。

3:19 主は知恵をもって地の基を定め、英知をもって天を堅く立てられた。3:20 深淵はその知識によって張り裂け、雲は露を注ぐ。

主は知恵を語られる時に、他の箇所でもしばしば、ご自身の造られた自然を語られます。ヨブに対してそうでした。嵐の中で現われて、ヨブにご自身の天地創造について、それをどれだけ知っているのかと問い質されました。とてつもない知恵によって、この地上が保たれています。したがって、ここで神が語りたいのは、「わたしを恐れて、わたしに心を尽くして投げ頼みなさい。わたしは、これだけ大きい神なのだ。」ということでもあります。

3B 平和な生き方 21-35

3:21 わが子よ。すぐれた知性と思慮とをよく見張り、これらを見失うな。3:22 それらは、あなたのたましいのいのちとなり、あなたの首の麗しさとなる。

「わが子よ」という、再び呼びかけです。ここでは、知性や思慮を、「見張る」ということ、そして「見失うな」ということです。主が私たちに語られた、「目を覚ましていなさい。用心していなさい。」ということに近いと思います。今は悪い時代になっているので、容易に、主ご自身のことから離れていってしまうことが起こりえます。

3:23 こうして、あなたは安らかに自分の道を歩み、あなたの足はつまずかない。3:24 あなたが横たわるとき、あなたに恐れはない。休むとき、眠りは、ここちよい。3:25 にわかにかこる恐怖におびえるな。悪者どもが襲いかかってもおびえるな。3:26 主があなたのわきにおられ、あなたの足がわなにかからないように、守ってくださるからだ。

知恵によって、安心と安全が与えられ、それによって安眠までが約束されています。主がすべてのことを掌握しておられるのです。「にわかにかかる恐怖」というのは、私たちがこの世に生きている限り、起こります。終わりの日に近づくにつれ、その頻度と規模は増します。それでも、安眠できるのです。イエス様のことを思い出してみましょう。主は嵐の中で眠られた方でした。「舟で渡っている間にイエスはぐっすり眠ってしまわれた。ところが突風が湖に吹きおろして来たので、弟子たちは水をかぶって危険になった。そこで、彼らは近寄って行ってイエスを起こし、「先生、先生。私たちはおぼれて死にそうです。」と言った。イエスは、起き上がって、風と荒波とをしっかりとつけられた。すると風も波も治まり、なぎになった。(8:23-24)」

そして次から、これらの知恵を隣人との関わりの中で用いていきます。

3:27 あなたの手に善を行なう力があるとき、求める者に、それを拒むな。3:28 あなたに財産があるとき、あなたの隣人に向かい、「去って、また来なさい。あす、あげよう。」と言うな。

先ほど、収穫の初物を主に捧げなさい、という命令がありましたが、心は同じです。主に対して、惜しみなく分け与えます。計算しないのです。善を行なう力というのは、財産であったり、富であったりします。善を行なえる機会が出てきたら、惜しまないで分け与えるのです。そして、当時の乞食は本当に窮乏していました。一日待ったら、本当に飢え死にしてしまうかもしれないのです。ですから、「あす、あげよう。」というのは、非常に無慈悲なことです。

3:29 あなたの隣人が、あなたのそばで安心して住んでいるとき、その人に、悪をたくらんではならない。3:30 あなたに悪いしうちをしていないのなら、理由もなく、人と争うな。

パウロは、「あなたがたは、自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい。(ローマ 12:18)」と勧めました。私たちが霊的に十分に養われていないとき、人をねたみ、争うことを好みます。パウロは、「あなたがたは、まだ肉に属しているからです。あなたがたの間にねたみや争いがあることからすれば、あなたがたは肉に属しているではありませんか。(1コリント 3:3)」と言いました。ある人は注意を引き寄せようとしたり、いろいろな人を巻き込ませていったり、平和な秩序があるところに争いを引き起こそうとします。それを免れることのできる道は、「キリストにある満ち足り」です。キリストにあって成長することです。

3:31 暴虐の者をうらやむな。そのすべての道を選ぶな。3:32 主は、よこしまな者を忌みきらい、直ぐな者と親しくされるからだ。

暴虐な者は得をしています。得をしている生き方をしてみたいと思う、その誘惑があるけれども、主がどちらを好んでおられるかを忘れてはいけないということです。

3:33 悪者の家には、主ののろいがある。正しい人の住まいは、主が祝福される。3:34 あざける者を主はあざけり、へりくだる者には恵みを授ける。3:35 知恵のある者は誉れを受け継ぎ、愚かな者は恥を得る。

正しい人と悪者の対比です。正しい人は祝福、そして恵みもあります。そして誉れが付いてきます。悪者はその反対です。呪い、主からのあざけり、そして恥を見ます。ですから、私たちは世の光となることができます。主の証しとなることができます。呪いの中に祝福を、あざけりの中にへりくだりを、そして恥の多い中に誉れを受け継ぐことができます。主の御霊によって、その知恵が与えられ、平和な義の実を結ぶことができるのです。